

市原市認知症対策連絡協議会 第27回 例会 (2021年度第3回例会)

日時 令和4年1月27日(木) 18:30~19:30

場所 Zoomを使った例会

出席者 35名

書記 飯吉

(1) 開会のあいさつ (小沢先生;市認協会長、ろうさい病院)

(2) 各事業所の近況報告および議論

小沢先生(市認協会長;ろうさい病院)

- ・新型コロナ感染症者の入院人数は5,6人程度。
- ・認知症の方がコロナ感染症になった際、大声を上げる患者に対応した医師が感染。
- ・マスクはしていたものの、ゴーグルを着用していなかった。
- ・クラスターは発生していない。
- ・一般の患者さんの入院が難しい状況となっている。
- ・一般病床が満杯である。
- ・各病院の受け入れ困難な状況のため遠方の患者が運ばれてきている。
- ・コロナの入院患者は今後増えるのではないかと思われる。
- ・現在のところ重症者はいない。
- ・混合型が観察されています。

- ・別棟でリハビリ棟が新設されました。

- ・市認協の活動はコロナ感染症予防のため上手くいかない状況が続いている。
- ・しかしながら、この活動(市認協の)を終わりにするわけにはいかない。
- ・こんな時こそ皆の気持ちを一致団結したいと考える。

飯吉(市認協事務局;なんな苑)

- ・コロナ禍で一時期入所の相談が極端に減ったが最近再び戻ってきた。
- ・それでもまだ入所・通所の枠に余裕があるのでさらなるご相談をお待ちしています。
- ・ミズノ社製 介護シューズ、ナースシューズをなんな苑内で展示してます。購入も承ります。
- ・靴底にジョギングシューズのノウハウをいかした介護シューズです。
- ・一般の方が履いても履きやすく、歩きやすい商品(介護シューズなのに)です。

永野先生(市認協副会長;永野歯科医院)

- ・PCR検査キットが市場に出回って無いようにみえます。

小沢先生(市認協会長;ろうさい病院)

- ・濃厚接触者がPCR検査を行います。

小出施設長(萬緑苑)

- ・日本財団系の施設は毎週PCR検査を行うことができる。

永野先生（市認協副会長；永野歯科医院）

- ・PCR 検査を行うタイミングはどのようなものが良いのですか？

小沢先生（市認協会長、ろうさい病院）

- ・濃厚接触者になってからすぐに PCR 検査を行うのは意味がないと思う。
- ・保健所は判断してくれないのですがスタッフは2日か3日空けてから行っている。

永野先生（市認協副会長；永野歯科医院）

- ・歯科医は現在でも感染例がない。
- ・歯科はマスク、アイ・ガード、手洗いを徹底している。
- ・これらは感染症対策に効果がとてもあると考えられる。

（3）令和3年度までの市原市認知症対策連絡協議会の活動の振り返り

飯吉（市認協事務局；なんな苑）

- A：若年性認知症対策プロジェクト
 - B：認知症サポータープロジェクト
 - C：在宅介護者を支えるマニュアル作成プロジェクト
 - D：服薬支援ネットワークプロジェクト
 - E：新規プロジェクト検討プロジェクト
 - F：フェスタプロジェクト
 - G：RUN 伴+いちはらプロジェクト
 - H：ステッカープロジェクト
- の振り返り。

（4）令和4年度 「RUN 伴+いちはら」の説明

山口氏（RUN 伴+いちはら実行委員長；ひまわり）

- ・「RUN 伴+いちはら」は今後どのようになるかはまったく読めない状況である。
 - ・もし、開催が可能になったとしてその際には今回の開催説明会に参加していない団体は「RUN 伴」を開催することができない。
 - ・山口氏（実行委員長）、飯吉（広報）、高橋氏（会計）および福田施設長（グランモア和光苑）の4名で Web 開催の説明会に出席した。
 - ・市原市は「RUN 伴+いちはら」として参加予定である。
 - ・しかしながらコロナ感染症予防のため残念ながら今のところ開催できるかどうかは判断がつかない。
-
- ・来年度の「RUN 伴+いちはら」役員は
 - 実行委員長 飯吉裕樹（なんな苑）
 - 広報 小山史樹氏（清流苑）
 - 会計 高橋瑞穂氏（NPO 法人一步一步）

今後の予定（「RUN 伴+いちはら 2022 実行委員」として）は

- ・ 2月中に「RUN 伴+いちはら 2022 実行委員」として be Orange（RUN 伴本部）に登録。
- ・ 3月以降は 2022 年度（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日）まで開催日の 2 か月前までに開催申請書を作成および提出をする（開催時）。
- ・ 開催できたとすると be Orange の「認知症街づくり基金」に寄付を行う。
- ・ 寄付の額は「RUN 伴+」として登録した際には参加者 1 人に付き 100 円とする。
- ・ 「RUN 伴+いちはら」がどういった形で開催されるかはこれから検討を行う。
- ・ 市民の皆さんが安心して参加できるような企画を検討する。

(5) 今年度の認知症多職種協働研修についてと今後の予定

小原氏（市原市役所）

- ・ コロナ感染症のまん延防止のため今年度の研修会の開催は断念。
- ・ 理由として
 - ・ 対面での開催はコロナ禍のため実施が難しい。
 - ・ 市役所内の Web 環境の問題のため Zoom 会議そのものが難しい。
- ・ 今後のテーマの案は
 - ・ 高齢者ドライバーの免許返納について。
 - ・ 認知症サポーター研修とは別に「ステップアップ研修」というものも計画している。
 - ・ 「ステップアップ研修」の講師をどうするかは検討している。
 - ・ 「ステップアップ研修」とは
 - ・ 厚労省の「チームオレンジ」を作ることを想定している。
 - ・ ステップアップ研修を修了した者は、それぞれの認知症の専門家（医師、看護、介護、リハ等々）からなる認知症支援チームをコーディネートするための人材として位置付けられる。

(6) インフォメーション

- ・ 地域包括支援センター ごい 様より
介護付き有料老人ホーム ケアレジデンス グランいちはら 10 床 が開設されました。
- ・ 小沢先生（市認協会長；ろうさい病院）
 - ・ 地域の認知症の当事者からお話を頂くことは市民に対してインパクトが違うのではないか。
 - ・ 認知症本人の権利を守るために認知症本人が話をするというのはどうか。
- ・ 永野先生（市認協副会長；永野歯科医院）
 - ・ 難しいけれど説得力がある。
 - ・ 総会でスローガンとして乗せてもいいのではないか。
 - ・ 会員の求心力のため、自分の患者さんを意識して普段から気を付けていこう。

- ・青木氏（傾聴の会ひだまり）
 - ・コロナ感染症対策のため7月22日からオンラインで傾聴ボランティアを行っている。
 - ・傾聴の会は3団体ある。
 - ・ひまわりさんとは月に6回のペースで傾聴の会を催している。
 - ・施設のニーズを受けて施設の行事に参加をしている。
 - ・新年の行事に参加をした。
 - ・タブレットを持って初詣（高崎神社）へ行った。
 - ・房総十字園へミカン狩りに行って来た。タブレットで映して気に入ったミカンを届ける。
 - ・「ウェルシア・コミュニティセンターいちほら」から「シルバーカレッジ21」が演奏を行っている映像（生演奏）をひまわりに配信している。
 - ・「ウェルシア・コミュニティセンターいちほら」はWi-Fiが使える。
 - ・情報は以下のURLから
 - ・<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=618b5648e90a6c48e2bee282>
 - ・「希望苑」へは「傾聴の会」がパソコン持参してウェルシアからの情報を届けている。
 - ・ご興味のある施設の方でやってみたい方は連絡を下さい。
 - ・市原市のホームページ「まちサポ」にて掲載されている（以下のURL）。
 - ・<https://www.city.ichihara.chiba.jp/article?articleId=60237fefece4651c88c192d0>
- ・「傾聴の会」の活動に対して県外の団体から問合せを貰っている。
 - ・市原市のやり方をまねている（福岡県でんでんむし、福島県さくら）。
 - ・アメリカ カリフォルニア州立大学から交流の依頼を受けた。
 - ・カリフォルニア州立大学からの交流依頼は市原市にも連絡があった。
 - ・日本でのボランティアの形を学生に学んでほしい（大西洋子先生）。
 - ・10人程度の学生（日本語専攻）に講義をして欲しい。
- ・安田先生（市認協幹事；斎賀医院）
 - ・著書が英語で翻訳されました。
- ・飯吉（市認協事務局；なんな苑）
 - ・来年度の市原市認知症対策連絡協議会の役員をどうするか。
 - ・今年度もコロナ感染症予防のため活動を行うことが難しかった。
 - ・そのため、来年度も留任でも良いのではないか。
 - ・難しいと思われる方はご連絡を下さい。
- （7）閉会のあいさつ（永野先生；市認協副会長、永野歯科医院）
 - ・コロナ感染症対策で活動ができなかった期間にみなさんはエネルギーをため込んできた。
 - ・今までは支援者として市認協の活動を行ってきた。
 - ・認知症のご本人からインフォメーションを頂くことは市民に対して認知症の方々が生活しやすい環境づくりを行うために説得力のある取り組みとなるのではないか。
 - ・そのためには発信できる当事者を探すことは重要なことであると思う。
 - ・Zoomを利用すると認知症の当事者の方も参加しやすいのではないか。
 - ・今後の活動に期待をしています。